

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0470201435		
法人名	株式会社ケアサービス 希慈		
事業所名	グループホーム希慈	ユニット名	
所在地	宮城県石巻市新成3丁目9-17		
自己評価作成日	平成 28年 2月 5日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成28年3月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は理念にも掲げているようにチームケアで利用者様・家族・地域の方々からも愛される施設を目指しております。震災などの災害を経験し、沢山の地域の方々やボランティアの皆様から支えて頂き成長させて頂いております。徐々に地域との繋がりも増え、地域ならではの行事に沢山参加したり地域の交流をこれからも大事にしていきたいと思っております。
職員もアットホームで利用者様と一緒に毎日笑ったり楽しく生活をさせて頂いております。アットホームな雰囲気を利用者様一人ひとりに「想い」が伝わるような、温かいサービスを提供しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

震災後、新興住宅地区に移転し、新築された建物は、平屋のゆったりとした造りとなっている。入居者が日常の大半を過ごす場である居間兼食堂は、前庭に面した開放的な共用空間である。居室等に通じる広い廊下にも天窗があり明るく、露出している自然木の柱とともに温もりが感じられる。震災以後、年に3、4回訪れてくれる埼玉の若いボランティアグループがあり、入居者が心待ちにして楽しく交流している。「入居者は人生の大先輩」という思いで接する職員の態度には、自分の家族以上に思いやる言動と姿勢が感じられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 **グループホーム希慈**)「ユニット名

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念では常に地域との繋がりを目標とするとともに、毎年度各職員の目標を掲げて、ケース記録に添付に常に目を通せるよう整えている。	「和衷協同・心をつなげて仲良く共に仕事をする」は移転後一貫した理念である。年度末に全員で確認し職員個々の目標を設定した。毎月ミーティング時に実践状況を確認し、成果・反省を翌月に反映している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の交流を図る為に万石浦ささえあい拠点センターにて地域の秋祭りに参加し、渡波小学校にて世代間交流会に参加したり、定期的に地域との交流を図っている。他にも色々なボランティアの人達の協力を得ています。	新興住宅地のため交流は少ないが、町内会に加入し、ホームの芋煮会に招待するなど広がりがつつある。栄田地区の夏祭りや漁協秋祭りへの参加や、日舞、フラダンスや三味線等の地域の方々の来訪もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際に、民生委員・家族に向け認知症についての情報交換を図っている。また、家族から認知症に疑問・不安点があった場合にはその都度相談に応じる環境を整えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の運営推進会議の際には近況報告や行事について話し合いを行っている。その際に、地域の行事等意見をもらい実際に参加してみたり助言を頂いている。	包括支援センター、民生委員、家族、入居者等の参加で開催しているが、行事や入居者の近況報告のみで意見等はほとんどない。民生委員から地区行事の情報をもらっている。今後は区長の参加を促して頂きたい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	何か不安と思う点は常に介護保険課に相談したり、実施指導の際には適切なアドバイスを頂き密に連携を図っている。	家族が遠方の入居者が特養ホームに入所する際の身元引受人等について相談し、適切なアドバイスを頂いている。市主催のサービス担当者会議、及び、虐待防止等の各種研修にも参加し、連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての内部研修を行いどういった事が拘束になるのか理解しケアに取り組んでいる。玄関等行き来できる場所には常に解錠し身体拘束のない環境作りを徹底している。	要望等があっても即応できない場合は、「ダメ」ではなく「待って」等の声掛けを工夫している。対応を実践している。玄関はチャイムだけで施錠せず、外出傾向の入居者には、「出たい時は出てもらう」で後から付いていく。時間をみて声を掛け、帰宅している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月に1回のミーティングの際に希慈の「理念」を再確認する場を設け、利用者様への接し方に誤りがないように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に後継人がいない利用者に対して、地域包括支援センターの協力を得て後見人を立てている。職員内でも十分に周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約・解約の際には必ず不安に思う点を聞き、円滑に利用できるよう努めている。また、改定等も常に周知し利用者・家族から質問されても十分に答えられるよう体制を整えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回の運営推進会議の際に、利用者や家族の方々に参加して頂き何か意見等はないか質問できる環境を整えている。また、家族様から今年も沢山外出し楽しんでもらいたいとの要望に対しての意見を反映している。	毎月の支払い時や面会時に声がけをしているものの、意見、要望はあまり聞かれない。少ない要望である外出については、家族も含めたお花見や夏祭、サンファン祭のほか、田尻のさくらの湯に出かけて喜ばれた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングの際に職員から意見や要望を取り入れ、常に反映できるよう取り組んでいる。特に掃除面では職員の意見が多くチームで力を入れている。	寝返り困難な入居者へのエアーマット使用や洗濯物干場の屋根設置等の提案があり改善した。年に2～3回、食事会や忘年会等気さくに話せる場も設けている。講習会等受講時の時間、費用面での支援も行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務体制について、「希望休制度」を設け職員に対して働きやすい環境を十分に作っている。各職員の勤務体制作りにも配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な内部研修と職員一人ひとりに対して力量を把握し外部研修に参加してもらっている。また、外部研修に行った月にミーティングの際に必ず研修報告をし情報共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に他事業所との交流が図れる場を設けている。お互いの事業所に行った際にも、「良い点」「悪い点」など言い合える交流関係がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用する前に、心配に思っている事に関して常に耳を傾け、在宅で生活されてきた生活と変わりがないように心がけている。施設サービス計画書に本人の想いを大切にサービスを提供できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用する前に、状況や困っていた点を聞きとりし安心して施設で生活できるように配慮している。家族からの意見も大切に計画書にも反映させ提供している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	聞き取りの際にチェックした点を取り入れて本人が最も必要としている事をサービスに組み込んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昼食や午前と午後のティータイムの時間に一緒に食事やお茶を飲んだり日々談笑があり、お互いの関係作りに力を入れている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	些細な事でも連絡しコミュニケーションを常に図れている。家族と一緒に利用者を支えていける環境を整えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の馴染みがある行事に積極的に参加し、これまで大切にしてきた地域での暮らしを支援できるように努めている。	高齢化により馴染みの場所等への外出も少ないが、近隣の理容室を6名の入居者が利用している。懐かしい漁協秋祭りや正月に来る獅子振り等の特有の地域行事では、笑顔での談笑や感涙する場面が見られた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	希慈では食事の際に利用者同士や職員がテーブルをかこみ、いつでも穏やかに楽しい生活を送れるように対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了となっても他の施設や病院への手続きの方法や、何か困った事があったら助言できるよう関係作りが行えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	病気等で思うように体が行かなくなっても、いつまでもその人らしく生活が送れるように支援していく事を重要視している。個別的なケア(外出等)に着目しサービスを提供できている。	外出願望のある方には外で人との触れ合いを支援している。就寝後にテレビを見る方の時間の加減などをしたり、一人で食べたい人の食事時間への配慮等、それぞれの思いに対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査時に生活歴や馴染みの事など聞き、把握に努めている。利用開始してからも常に本人の思いを大切にできるよう日頃からコミュニケーションを図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝の申し送りの際に、細かな身体の状態等を話し合い現状の把握ができています。また、ケース記録や申し送りノート等に小さな事でも記録している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	基本的には3ヶ月毎にモニタリングをしているが、初回利用時等、細かなケアが必要な場合には短期間に見直している。更新の際にも本人や家族の意向を踏まえたケアプラン作成が行えている。	ケース記録により毎月1回ケアプランの打合せを行っている。モニタリングは職員全員で行っているが、状態によって1~2ヶ月で見直すこともある。ケアマネージャーが作成し、家族に説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々利用者の変化があるので職員間でケース記録を充実させる事に周知し、都度のケアプランの見直しに取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者が些細な事でも体調に不安があった場合は直ぐに専門医を受診するよう徹底ができています。余暇面に関しても散歩等、要望に対して柔軟に対応できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、地域包括支援センターと密に連携を取り、早期に地域資源の情報共有が図られていて沢山の行事にも参加する事が出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	体調にも不安なく生活して頂く為に、かかりつけ医への通院を重要視し継続できている。詳しい検査が必要な持病の場合、かかりつけ医から他病院へ紹介状を書いて頂き直ぐに受診できる体制を作っている。	月1回協力医受診のほか、皮膚科、眼科、歯科等の受診があり、通院対応は入居者の体調把握の観点から職員が行っている。緊急時の対応は石巻赤十字病院に受診する体制ができている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当事業所では看護師は配属していない為に常に医師に相談し早期の対応を心がけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的な面会での情報共有や医療連携室との関係作りを深め、早期に退院できるような対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアはまだ経験していないが、契約時についてターミナルケア(看取り)について十分な理解を得て頂き同意して頂いている。基本的には医療行為が必要になった場合は契約解除となり、病院にて看取りを対応して頂いている。	契約書、及び、重要事項説明書への成文化はされていないが、別様式の「ターミナルケア(看取り)について」で本人、家族に説明し了承を得ている。これまで医療行為が伴わない場合の看取りの経験はないが、職員は重度化の研修を受けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署立会いで応急手当の講習を開いたり、定期的に急変時のマニュアルを参照し職員全員が適切な対応ができるように徹底している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルや基に現時点での避難場所を確保できている。去年の落石で地域との協力体制が築けている。	10月の防災訓練時に消防署の講評で、「非常ベルの音が聞き取れず、職員の駆けつけがなかった」とあり、以後の対応を考慮されたい。周辺地域住民の参加がなく、今後に向けての協力体制作りを考慮されたい。	崖崩れの際は大声の協力要請で支援を得たとのことだが、いろんな災害が想定されることから、地域の町内会等を通じて近隣住民との連携体制とマニュアル化を講じて頂きたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室は全個室でありその方にあったお部屋の空間を配慮し、安心して過ごして頂けるように対応している。お部屋に入る時には必ずノックをし排泄等の介助の際はカーテンを閉めたりプライバシーに配慮できている。	大半の入居者は「さん」付けだが、元美容師の方は「先生」と呼んでいる。トイレの誘導は人格等を考慮し、耳元で囁くような声掛けをしている。自室でポータブルトイレ使用の入居者にはドア等を閉める配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりから、好きな趣味やお気に入りの物など選択できる環境を整えている。本人にとってのライフスタイルができるように十分配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設の流れに沿って時間を決めるのではなく、利用者様中心に生活して頂いている。その為、一人ひとりに沿っての生活を尊重し好きな時間に好きな事ができるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自室に洗面台があり、各利用者毎に好きな整容品を置いたり環境を整えている。また、地域の理容院に行った際には、本人の希望に沿った髪型にしてもらったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に1度「希望食」があり、要望にあった食事を提供している。地域の魚屋から採れたての魚を召し上がる事もできており満足して頂いている。	誕生会では該当者の希望食が提供され、外食も回転寿司等に出かけて喜ばれている。年1回、市の栄養指導を受けている。食事制限の入居者もいることから、主治医の指示による対応をお願いしたい。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	市の栄養指導に準じ、栄養に偏りがないバランスの良い食事を提供している。また、主治医からの指示で食事制限がある方には過剰にならないような指示も受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・毎食後に歯磨きをして頂くように声がけし、積極的に自分で歯磨きして頂けるよう対応している。もし、歯に異常があった場合には直ぐに往診してもらえよう徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本的には「自分で排泄をして頂く」ことを念頭に置き、体が思うようにきかない利用者でもポータブルトイレで排泄をして頂いたりしている。排泄チェック表にてその方に合った対応ができており、いつまでも自力で排泄ができるよう心掛けている。	昼夜ともトイレでの自力排泄を基本にした積極的な誘導を行っている。昼夜のポータブルトイレ使用者、おむつ使用者がいる。おむつからリハパンになるなど改善した方がおり、誘導の成果が出ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便状況に応じ、「下剤管理表」にて便秘症にならないよう対応している事や、毎日1回ヨーグルトを提供したり、食物繊維の多い食材も選んだりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調や気分が優れない等の要望があった場合には翌日に入ってもらえるような対応をしている。また、入浴時間に制限をしておらずゆったりと入浴を楽しんでもらえるよう配慮している。	午後の入浴になっており、2日に1回入浴できる。入浴剤等は使用しておらず、肌の弱い人には、病院処方薬でケアを行っている。体の状況により2人介助で対応しており、脱衣所には温風ヒーターを置いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのライフスタイルを尊重し、好きな時間に休んでもらえるよう徹底できている。夕食後に直ぐに横になって寝たい方もいれば、テレビやラジオを楽しむ方もいたりそれぞれである。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	別紙「薬管理表」にて一人ひとりの薬がどのような効果があるか表記しており、且つ用法及び用量についても細かく記載している。また、薬の変更があった場合にはケース記録に細かく記入したり、処方箋を基に申し送りしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活リハビリに着目し、洗濯置等できることをして頂く習慣があり職員も一緒になって毎日実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季を楽しめるようにその季節にあった場所への外出を心がけている。地域包括支援センターや民生委員との繋がりも深く、いろんな社会資源を得て様々な場所へ外出している。	お花見や夏祭り等のほか、民生委員等からの情報を得て、周辺地区の各行事に出かけている。外出行事には家族の参加もあり、好評を得ている。周辺の散策や買い物に好んで出かけたたり、家族と病院受診時等に外食を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を自分で持ちたいと話されている利用者には自分で持って頂いている。買いたい物があつた場合一緒に買い物に行ったりもしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族等連絡したい場合、施設の電話で自由にして頂いている。手紙も要望があれば、できるように配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内はとても家庭的な雰囲気があり家庭で生活して頂いているような空間である。季節感を感じられるよういつでも飾り物をホールに飾ったり、掲示板には毎月の行事を写真にし、吹き出しの画用紙にどんな事をしたかわかりやすく記入したり工夫をしている。	事務室前には人形や植物が置かれ、共用スペースには誕生会や節分の各行事写真等が飾っている。天窗や掃き出し窓からの自然採光があり、明るく温もりのある共用空間は開放感があり、水回りの隅々まで掃除が行き届いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはテレビをゆったりみられるように大きめのソファを用意したり、自由に席が座り談笑できるようにテーブルを設置し安心できるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で生活していた時と変わらないように慣れ親しんだ物を持って頂き不安を抱かないよう、利用者や家族にお願いをしている。	職員が掃除する居室内はすっきりしており、慣れ親しんだ物や飾り物も少ない。ほとんどの物が新しく見える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は段差は無く、手すりが付いて安全に歩く事ができる。ホールも広く開放感があり車椅子で生活している利用者でも不安なく生活して頂いている。		